

学校と併設・複合された公共図書館の現状と課題

Current status and issues of public libraries combined with schools

学籍番号：201721671

氏名：櫻井 美幸

Miyuki SAKURAI

近年、日本では公共図書館が学校と併設・複合される事例が増加している。その要因として、少子高齢化に伴う公共施設の利用需要の変化に対応する公共施設の適正な維持管理・人口減少時代と多様な学習活動に対応した活力ある学校づくり・学校規模の適正化が挙げられる。

本研究で取り上げる事例は海外で school-housed library , joint -use library 等と呼ばれており、実態調査が行われているだけではなく、主に北米の事例を中心に分析した学校と併設・複合された公共図書館の成功要件も Haycock によって明らかにされている。また、アメリカでは学校と公共図書館が併設・複合されているという連携・協力関係を活かし、複数の世代が積極的に公共図書館を利用する機会を提供している事例も存在する。しかしながら、日本では学校と併設・複合された公共図書館の実態が明らかになっていない。

これより、本研究では日本の学校と併設・複合された公共図書館の長所と短所を明らかにした上で現状と課題を整理することを目的とし、事例調査・訪問調査・質問紙調査を行った。

事例調査では、現在日本に設置されている学校と併設・複合された公共図書館の事例を網羅的に調査し、「学校+図書館型」「学校+公共図書館+その他施設型」「学校図書館分館機能型」の三つに分類することによって、事例調査で体系化した三つの分類の中のうち特色ある事例を選定し、質問紙調査を実施するための予備調査として訪問調査を行った。さらに事例調査・訪問調査で得られた知見をもとに、日本に設置されている学校と併設・複合された公共図書館 60 館全てを調査対象とした質問紙調査を行った。

以上の調査より、日本の学校と併設・複合された公共図書館を六つに類型化できることを明らかにし、学校と併設・複合されたことで児童・生徒の読書習慣の定着・幅広い内容の図書の提供による授業内容の充実などという長所を公共図書館が認識しているという現状と、防犯上の不安・騒音等に関する課題を抱えているという結果を得ることができた。

研究指導教員：池内 淳

副研究指導教員：平久江 祐司